

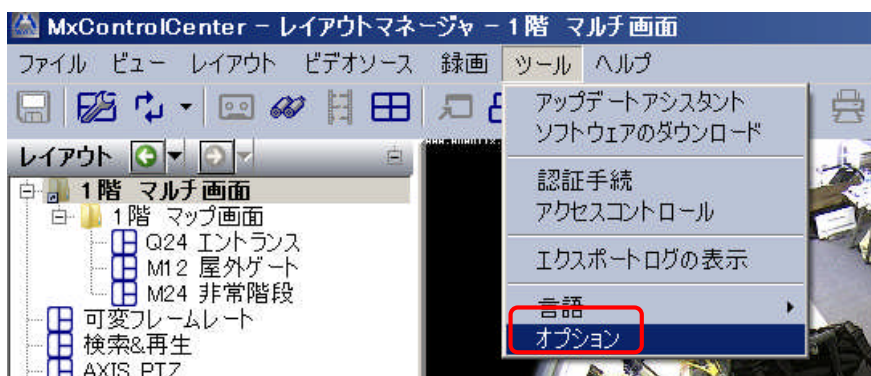
MxControlCenter V2.3 アラームリスト

MxControlCenter 設定

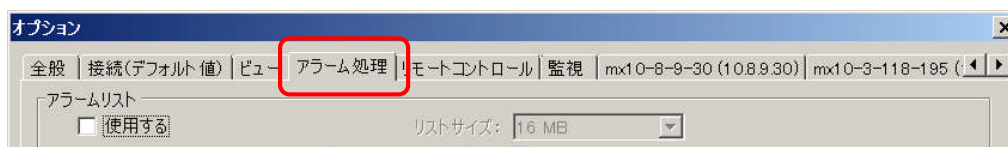
1. インストール&起動方法やマルチ/マップ画面の作成方法のマニュアルを参考にMxControlCenter を起動します。



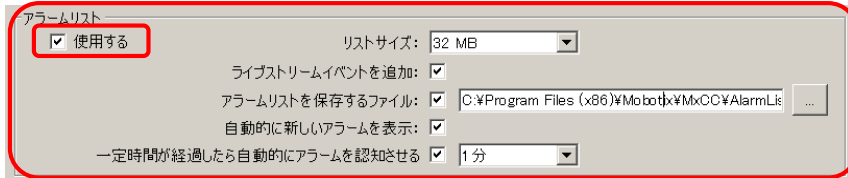
2. メニューバーのツールを開き、「オプション」をクリックします。



3. 上部タブの中の「アラーム処理」をクリックします。



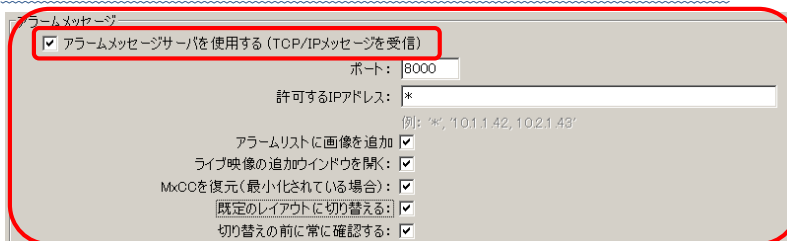
4. 「アラームリスト」の「使用する」に✓を入れ、それぞれの項目に任意の設定を行います。



- リストサイズ：
→アラームリストに保存するアラーム画像の保存容量を選択します。
- ライブストリームイベントを追加：
→ライブ表示されているカメラに録画イベントが発生した場合に、アラーム画像をアラームリストに追加します。
- アラームリストを保存するファイル：
→アラームリストの保存先を指定します。
- 自動的に新しいアラームを表示：
→アラームリストを非表示にしていた場合、新しいアラームが発生した場合に自動的にアラームリストを表示します。
- 一定時間が経過したら自動的にアラームを認知させる：
設定した時間が経過したら、自動的にアラームを認知します。

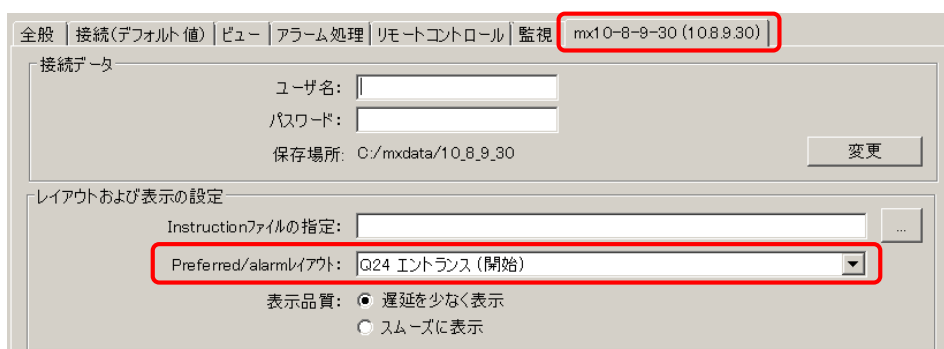
5. 「アラームメッセージサーバを使用する(TCP/IP メッセージを受信)」の「使用する」に✓を入れ、それぞれの項目に任意の設定を行います。

*アラームメッセージサーバを設定した場合、ライブ映像に表示されていないカメラからもメッセージを受信し、画像のポップアップやアラームリストにアラーム画像が追加でき、より大規模なカメラのアラームを管理できます。

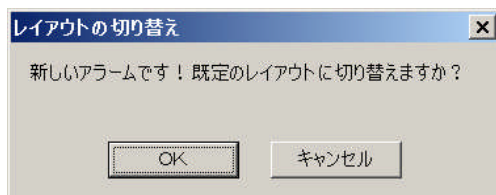


- ポート：
→MxCC が IP メッセージを受信するポートを任意に入力します。
*設定したポート番号は、ファイヤーウォールなどのブロックから除外してください。
- 許可する IP アドレス：
→IP メッセージの受信を許可する送信元の IP アドレスを入力します。
特に指定しない場合は、「」で構いません。

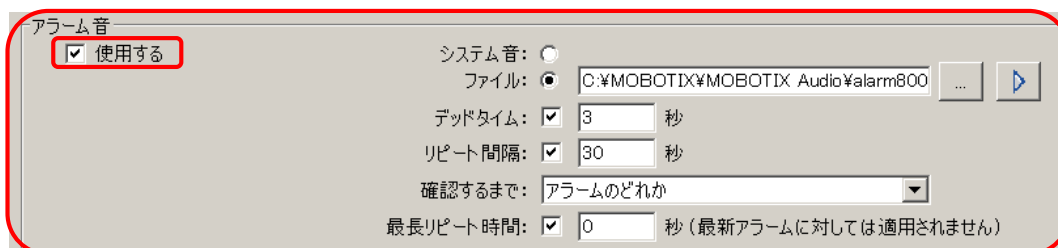
- アラームリストに画像を追加 :
→アラームリストに、アラーム画像を追加します。
- ライブ映像の追加ウィンドウを開く :
→アラームが発生したカメラのライブ画像をオリジナルサイズでポップアップ表示します。
- MxCC を復元(最小化されている場合):
→MxCC が最小化されていた場合、MxCC が自動で立ち上がります。
- 既定のレイアウトに切り替える :
→カメラタブで選択した「Preferred/alarm レイアウト」で選択(下記参照)して、設定したカメラから IP メッセージを受け取った場合に、選択したレイアウトに自動的に表示を切り替えます。



- 切り替えの前に常に確認する :
→「既定のレイアウトに切り替える」を使用していた場合に、レイアウトが切り替わるタイミングで、切り替えの有無を確認されます。



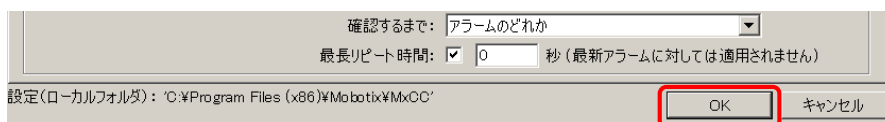
6. アラーム音を使用する場合は、「アラーム音」の「使用する」に✓を入れ、それぞれの項目に任意の設定を行います。



- システム音 or ファイル :
→システム音か、指定した音声ファイル(*.wav)を選択します。

- **デッドタイム :**
→アラーム音のデッドタイムの有無と、デッドタイム時間を入力します。
- **リピート間隔 :**
→アラーム音のリピートの有無と、リピート時間を入力します。
- **確認するまで :**
→リピートを終了するためのアラームの認識方法を選択します。
 - ◇ アラームのどれか : どれか**1**つのアラームをクリック
 - ◇ 最新のアラーム : 最新のアラームをクリック
 - ◇ 全てのアラーム : 全てのアラームをクリック
- **最長リピート時間 :**
→ 最長のリピート時間の有無と、その最長時間を入力します。

7. アラーム処理の設定が終わったら  をクリックします。



8. **MxControlCenter** の設定を、 をクリックして保存します。



カメラ設定

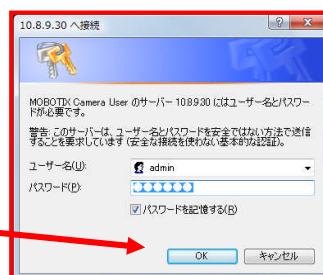
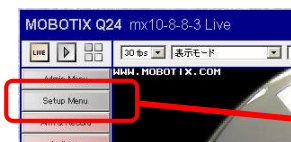
9. 次にカメラの設定を行います。イベント発生時、アラームメッセージを送信したいカメラを、ブラウザ(例;**Internet Explorer** など)からアクセスします。



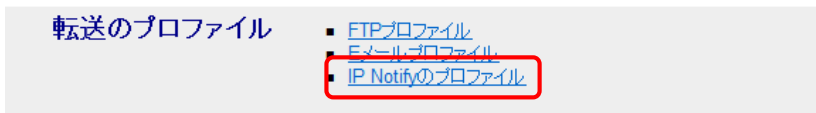
10. カメラの「**Admin Menu**」をクリックして、ユーザ名とパスワードを入力します。

初期ユーザ名 : **admin**

初期パスワード : **meinsm**

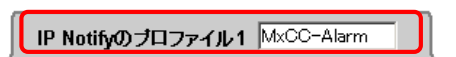


11. ページ中部の「転送のプロファイル」から「IP Notifyのプロファイル」をクリックします。

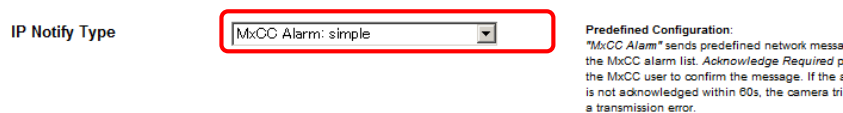


12. ページ右下に「一部」のボタンがあることを確認します。「全体」の場合は、クリックして画面表示を全体に切り替えます。

13. 次に MxControlCenter へ送信する IP メッセージの設定を行います。「IP Notify のプロファイル 1 MxCC-Alarm」の設定を変更します。



14. 続いて IP NotifyType を選択します。ここでは、「MxCC Alarm : simple」を選択します。



15. 次に、アラームメッセージ送信をする PC の IP アドレスと、先ほど設定した MxControlCenter のポート番号を入力します。

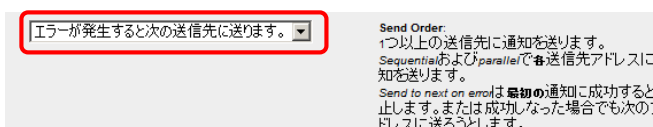
例 ; PC の IP アドレス(192.168.3.69) : MxCC のポート番号(8000)



*送信先アドレスには複数宛先を入力することができます。その場合は、改行して IP アドレス:ポート番号をそれぞれ入力します。

16. 複数の MxCC でポップアップさせたい場合は、宛先アドレスに改行して複数の IP アドレスと MxCC のポート番号を入力します。その際に、送信する順番を Send Order で選択します。

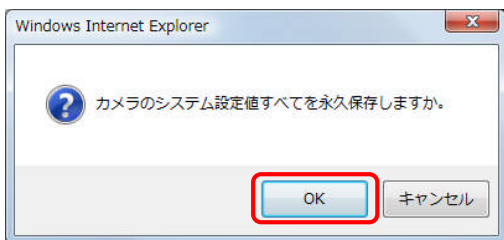
- ・シーケンシャルですべてに送ります。 : 上から順々に送信
- ・パラレルですべてに送ります。 : 一斉にすべての宛先へ送信
- ・エラーが発生すると次の送信先に送ります。 : 送信できないと次の宛先に送信



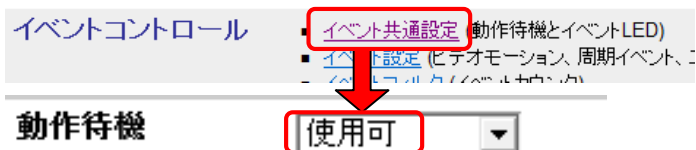
17. 送信ポートは、「0」にします。

送信ポート ポート番号:
このカメラのポート(0:自動の場合)からメ
ッセージを送ります。

18. **設定** をクリックして、画面がぱっと切り替わったら **閉じる** をクリッ
クして、ポップアップページの「OK」でフラッシュメモリに保存します。



19. 次に **Setup Menu** を開き、イベントと関連付けを行います。
まず、**Setup Menu** の「イベント共通設定」開き、動作待機を「使用可」に設定します。



20. 次に **SetupMenu** の「イベント設定」で、アラームメッセージを送りたいイベントを
設定します。

MOBOTIX Q24 mx10-8-8-3 イベント 設定		
共通設定	値	説明
イベントデッドタイム	<input type="text" value="5"/>	イベントデッドタイム: 検出誤動作を防ぐために次の検出までの待 ち時間を [0..3600 秒] で設定します。
イベント	値	説明
ビデオモーション領域 (VM)	<input type="checkbox"/>	ビデオモーション使用可: モーション検知はデジタル画像解析によるも のです。
ビデオモーション領域 (VM2)	<input type="checkbox"/>	ビデオモーション使用可: モーション検知はデジタル画像解析によるも のです。
マイクホン (MI)	<input type="checkbox"/>	マイク使用可: 内蔵マイクによる音検出
周期イベント (PE)	<input type="checkbox"/>	周期イベント使用可: x秒毎にアクションをトリガします。
タイムタスク (TT)	<input checked="" type="checkbox"/>	タイムタスク: タイムタスクでイベントをトリガします。
ユーザクリック (UC)	<input checked="" type="checkbox"/>	ユーザクリック: 画面上で対応するソフトボタンをクリックする とイベントをトリガします。 ここをクリックしてユーザクリック (User Click) をトリガします。

21. 最後に **Setup Menu** の「メッセージ送信」もしくは「メッセージ送信 2」を開き、イベントと **IP Notify** のプロファイルの関連付けを行います。

- **メッセージプロファイル：**

→ 使用可に設定します。

メッセージプロファイル

メッセージプロファイルを使用可にします。
このメッセージプロファイルを制御します。
使用可: プロファイルを起動します。

- **タイムテーブル：**

→ **IP Notify** を送信する時間を制御します。応用マニュアル「タイムテーブル」をご参考ください。

Time Table Profile:
このメッセージプロファイルのタイムテーブルです。(タイムテーブル)

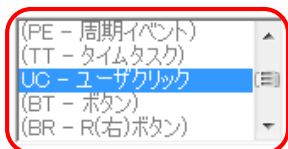
- **メッセージ動作のデッドタイム：**

→ 一度目の送信からデッドタイムを設け、連続する無用なポップアップ表示を防ぎます。

メッセージ動作のデッドタイム:
新しいアクションを実行するまでのメッセージ動作タイムアウト [0..3600 秒] です。

- **イベント選択：**

→ **IP Notify** を送信したいイベントを選択します。グレイアウトしているイベントは有効になっていません。イベント設定で有効にしてから選択してください。複数選択したい場合は、「Ctrl」キーを押しながら、左クリックをします、



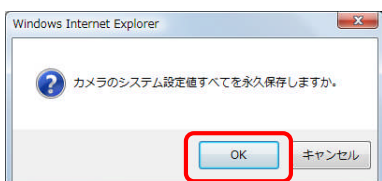
イベントの選択:
メッセージをトリガするイベントを選択します。
1つ以上のイベントを選択するには [Ctrl] キーを押しながらクリックします。
ブラケットで囲まれたイベントをまず **起動** する必要があります。
フィルタイベント用の **EC** または **EL**。

22. アクションの **IP Notify(IP)** で、「**MxCC-Alarm**」を選択します。

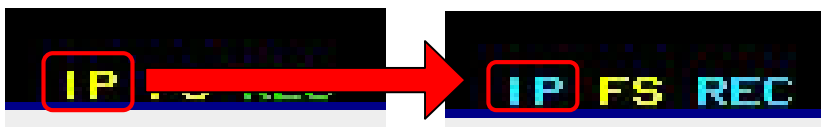
IP Notify (IP)

IP Notify のプロファイル:
TCP/IP プロトコルを使用したネットワークメッセージによる通報です。(IP Notify のプロフィール)

23. **設定** をクリックして、画面がぱっと切り替わったら **閉じる** をクリックして、ポップアップページの「**OK**」でフラッシュメモリに保存します。



24. 画像内右下に「IP」のシンボルが追加にされたことを確認します。最後に選択したイベントが発生すると、「IP」のシンボルが水色に変化し、アラームリストが追加/画像がポップアップ表示すること(アラーム処理で設定した内容)を確認します。

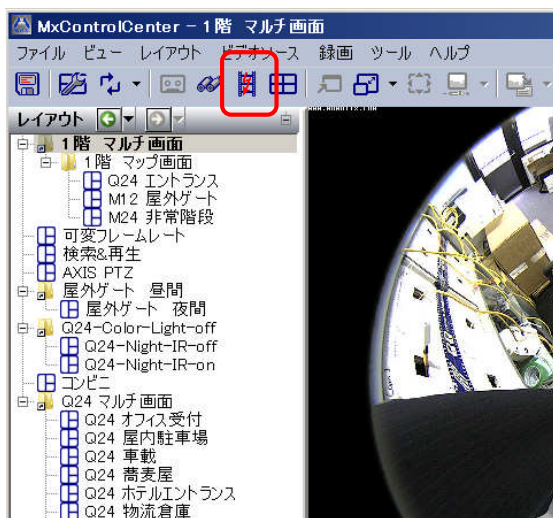




MxControlCenter アラームリスト

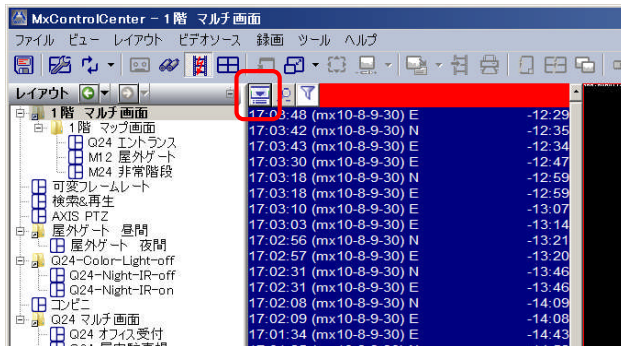
25. アラームリストを設定すると、サイドバーとレイアウトの間にアラームリストが表示されます。




26. アラームリストを非表示にする場合は  をクリックします。再度表示させる場合は、 をもう一度クリックします。







27. アラームリストをテキスト化したい場合は  をクリックします。再度画像で表示したい場合は  をもう一度クリックします。



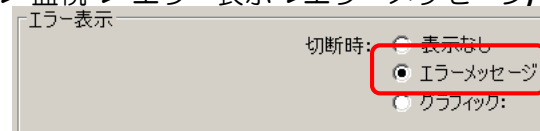
28. アラームリストの画像を大きくする場合は  をクリックします。再度小さくさせる場合は、 をもう一度クリックします。



29. カメラによるアラームリストのフィルタリングが可能です。

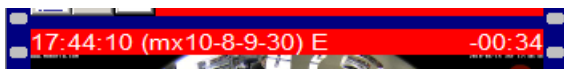
-  : フィルタリングなし
-  : 選択したカメラのみをフィルタリング表示(固定)
-  : 選択したカメラのみをフィルタリング表示
(新しいアラームが発生した場合フィルタリングを解除)
-  : カメラ接続の切断アラームを表示

(メニューバー > ツール > オプション > 監視 > エラー表示 > エラーメッセージ)

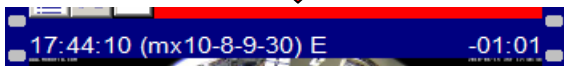


30. アラームの認識はアラームリストの上部のタイトル[アラーム時間(カメラ名) N]

17:46:34 (mx10-8-9-30) N -00:11をクリックします。



: アラーム未認識



: アラーム認識済み

31. アラームリストの画像上でダブルクリックすると、アラーム発生時の画像が画像検索ページで表示され、すぐにその時の状況を再生して確認することができます。

*SD/NAS/Server 上に画像が保存されている場合に限る。

*ビデオ検索に関しては、別途「録画画像の検索/再生/バックアップ方法」のマニュアルをご参考ください。

